

寺村輝夫の むかし話

おばけのはなし 2

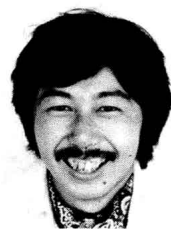
寺村輝夫・文／ヒサ クニヒコ・画





文 / 寺村 輝夫

1928年東京生まれ。早稲田大学卒業。文京女子短期大学保育科教授。毎日出版文化賞、国際アンデルセン国内賞、講談社出版文化賞絵本賞、巖谷小波文芸賞を受賞。「寺村輝夫童話全集」をはじめ、「ぼくは王さま」「おしゃべりなたまごやき」「おおきなちいさいぞう」「おはなしりょうりきょうしつ」「おにのあかべえ」「どうぶつえんができた」など童話や民話の著作が多数ある。



画 / ヒサ クニヒロ

1944年東京生まれ。慶応義塾大学卒業。在学中「漫画研究会」に所属。第18回文春漫画賞受賞。作品に、漫画集「マンガ版太平洋戦史」「さようならをいわないで」「ヒサクニヒロの国鉄あちこち体験記」、児童書「ヒサクニヒロ恐竜の研究」「ちゅうたのクリスマス」、さし絵に「さびしい王様」「おにのあかべえ」など多数ある。漫画集団、日本漫画家協会会員。

寺村輝夫のむかし話 おばけのはなし(2)

1979年6月初版発行 1985年7月第47刷

作 者 寺村輝夫・ヒサクニヒロ

発行者 岡本雅晴

印刷所 錦明印刷株式会社

写植所 株式会社田下フォト・タイプ

製本所 中央精版印刷株式会社

発行所 株式会社あかね書房

東京都千代田区西神田3-2-1

☎03-263-0641(代) 振替東京3-64150

NDC388

寺村輝夫

おばけのはなし(2)

あかね書房 1985

111P 21cm

寺村輝夫のむかし話⑥

©寺村輝夫 ヒサクニヒロ 1979Printed in Japan

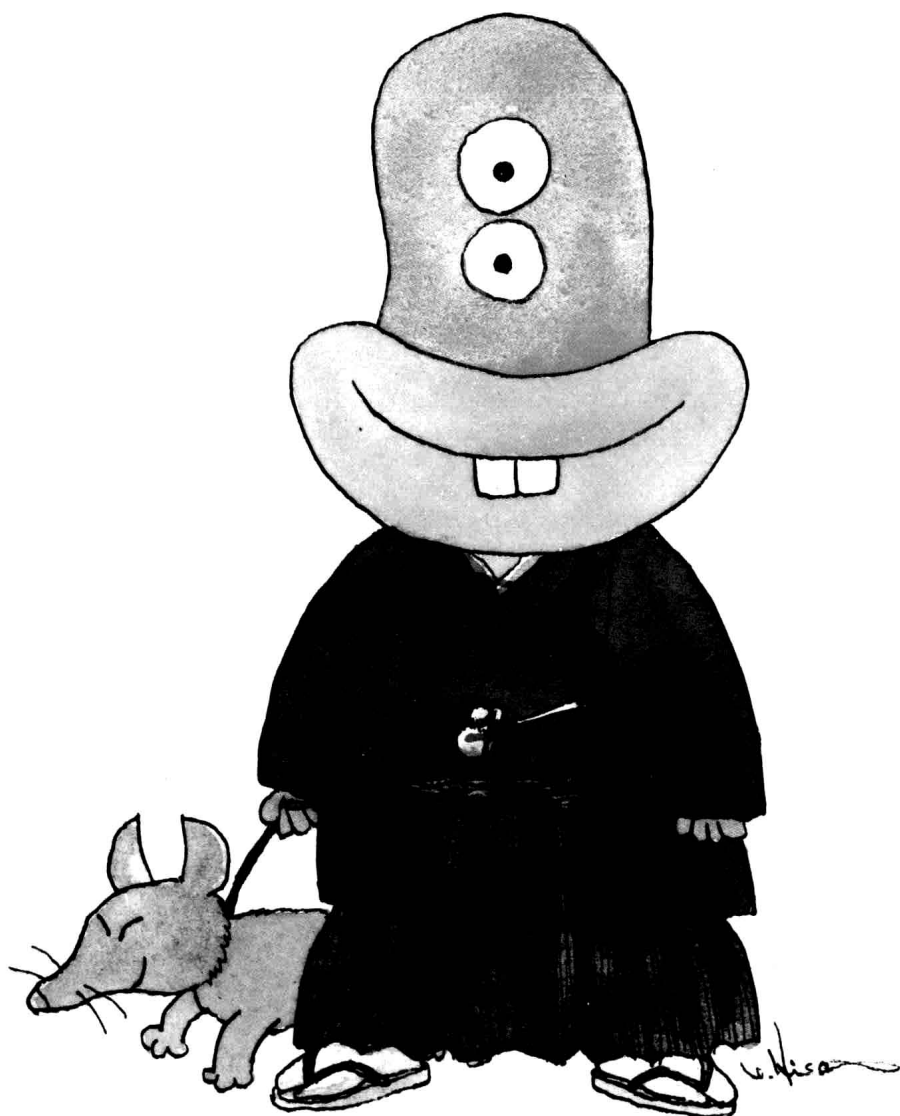
〈検印廃止〉落丁本、乱丁本はおとりかえします。

ISBN4-251-06016-4

寺村輝夫の むかし話

おばけのはなし 2

寺村輝夫・文／ヒサ クニヒコ・画









20人のあまさん、みんなしょうたいをあらわして、きつねになって、にげまわりました。そこへ、
犬をおしこんでやったら……。

(「きつねのあまさん」より)





ばけものやしき

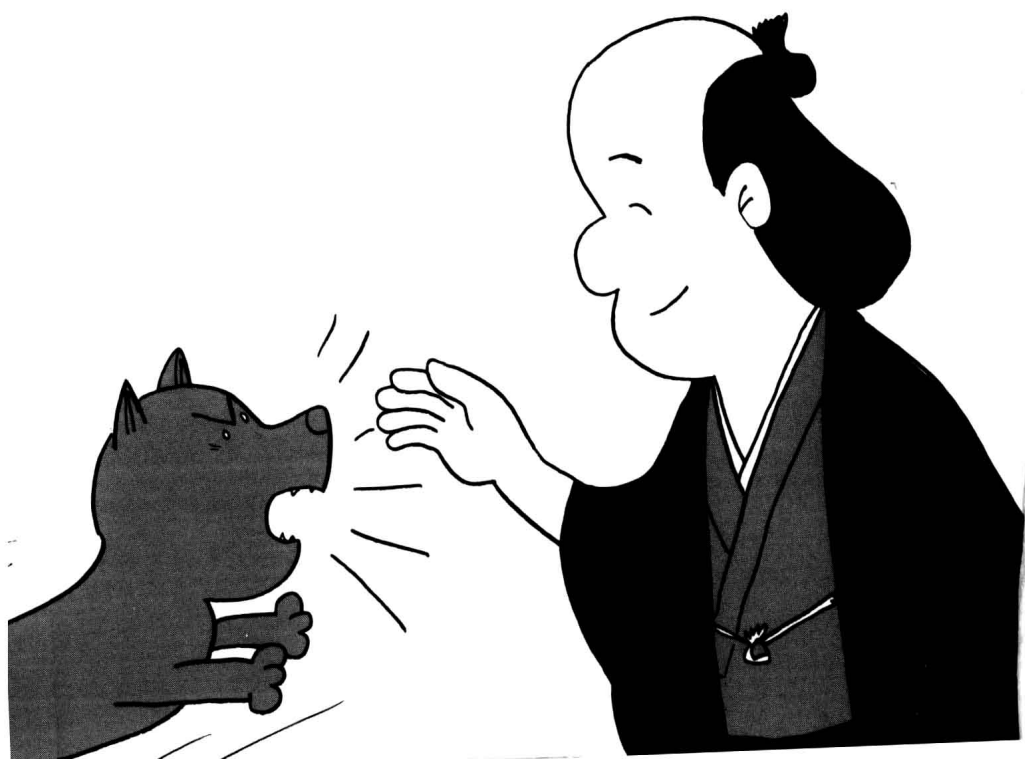
むかし、けちんぼの金^{かね}もちがいました。金^{かね}ならたくさん
もっているのに、いまにもつぶれそうな家^{いえ}にすんでいまし
た。そして、せっせと金^{かね}をためこんでは、ざしきの下^{した}にう
めておいたのです。

金^{かね}もちは、しんでからも、犬^{いぬ}にばけて、すみつきました。
だれにも金^{かね}をとられなくなかったのです。人^{ひと}がちかづく、

わんわんほえて、おいはらつ
てしまうのです。

さて、このうわさを聞^きいた
よごどんは、あるばん、ぼろ
家^やに入^{はい}っていきました。犬^{いぬ}が
ほえかかるので、

「おら、ふところに、だいじ
なものもってるだ。よそに
とまると、ねてるまに、だ
れかにとられるといけねえ。



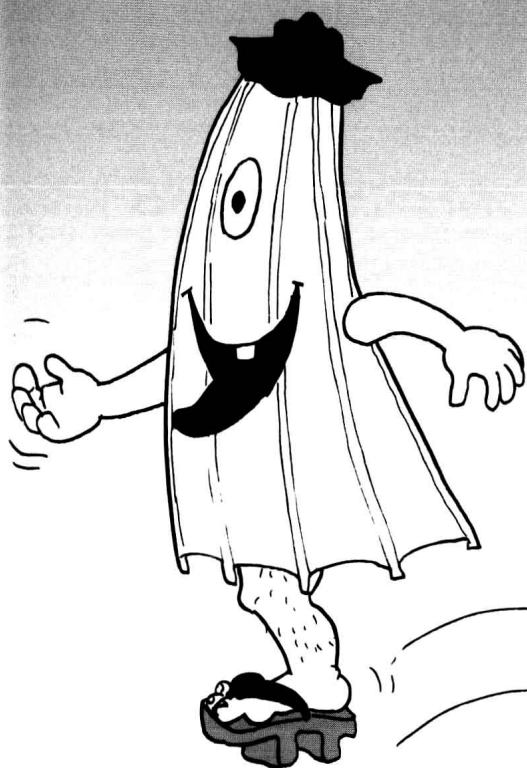
「ここさ、とめてくれ。」

いうと、夫はおとなしくなりました。

「はい、家に入りこみました。すると、まっくらな
にゅうしつと、ほそながい女のくびがのびてき

ものの、おいていけえ。」





よごどんは、

「そんなもの、こわくねえ。」

すると、こんどは、とんと

ん音^{おと}がして、かきのおばけが

やってきて、

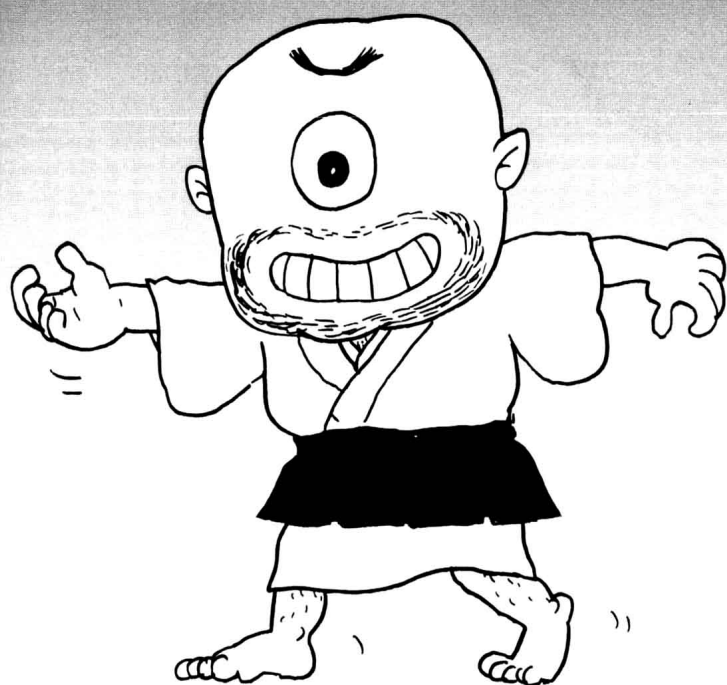
「だいじなもの、おいていけ

え。」

「そんなもの、こわくねえ。」

すると、こんどは、一つ目^め

こぞうが、ぱっとあらわれ、



「だいじなもの、おいていけえ。」

「そんなもの、こわくねえ。」

すると、一つ目^めこぞうは、

「なにが、こわい。」

と、きいたので、

「おら、金^{かね}がいちばんこわい。」

一つ目^めこぞうは、

「ようし、おまえのいる下^{した}を

ほってみろ。」



よごどんは、さっそ
く、たたみをあげて、
ゆか下^{した}をほってみまし
た。すると、つぼに入
れた小ばんが、ざくざ
くざく。

「きやあつ、こわ、こ
わ。こんなこわいも
の、みんなにやっち
やえ。」

あさになって、村の人むらひとに、
小ばんこをくばってしまいま
した。村の人むらひとは、大よろこ
びです。

あとで、ぼろ家やにいつて
みると、犬いぬが、血ちをはいて、
しんでいました。村の人むらひとた
ちは、犬いぬをおはかにうめて、
おきようをあげたというこ
とです。





かつぱの生いきばり

(針)

むかし、あるところに、とんでもないなまけものがいました。夜は早よるくねて、あさねぼう、それにひるねもたつぷりやって、まるではたらかないのです。おかみさんは、すっかりあきれて、

「おまえなんぞ、いなくていい。出でていけ。」

おい出だしてしまいました。

さて、なまけ男おとし、ぶらぶらとあるいていききましたが、川かわに出でました。はしをわたっていこうとすると、下したから、
「やあい、いいきみだ、くやしかったら、川かわへとびこんで、
しんでみろ。」

そういったのは、かっぱです。

なまけ男おとしは、ちえだけは一人にんまえだったようです。かっぱにいいました。

「ああ、おら、しにたいよ。きつと、しぬが、そのまえに
一つだけ、やりたいことがあらあ。おまえ、生いきばりを
もってるな。しんだ人にんげんをさせば、生いきかえるってや